The background is a repeating pattern of stylized, hand-drawn faces in various expressions (smiling, neutral, surprised, angry) and speech bubbles. The speech bubbles contain the words '特急心' (Tokkyūshin), 'ハンバーグ' (Hamburg), 'Nah', and a star symbol. The entire pattern is rendered in a light orange color.

令和7年度（2025年度）  
渋谷区子ども会議  
実施報告書

令和8年3月

渋谷区

## 目次

<b>1 渋谷区子ども会議の概要</b> . . . . .	<b>1</b>
(1) 目的・位置づけ . . . . .	1
(2) 実施方針 . . . . .	2
(3) 実施概要 . . . . .	3
<b>2 各回の実施概要</b> . . . . .	<b>4</b>
(1) 第1回（導入・テーマ理解） . . . . .	4
(2) 第2回（話し合い・グループワーク） . . . . .	6
(3) 第3回（意見整理・提案づくり） . . . . .	8
(4) 第4回（意見発表・意見交換） . . . . .	10
<b>3 提案資料</b> . . . . .	<b>21</b>
(1) デジタル活用 . . . . .	21
(2) 環境 . . . . .	28
(3) 福祉 . . . . .	37
<b>4 子ども会議参加者の提案に対する渋谷区の回答</b> . . . . .	<b>48</b>
(1) デジタル活用 . . . . .	48
(2) 環境 . . . . .	49
(3) 福祉 . . . . .	51
<b>5 アンケート集計結果</b> . . . . .	<b>54</b>
(1) 参加者アンケート . . . . .	54
(2) 保護者アンケート . . . . .	57
<b>6 渋谷区子ども会議を終えてー子ども青少年課ー</b> . . . . .	<b>61</b>
<b>7 その他資料</b> . . . . .	<b>62</b>
(1) 渋谷区子ども会議実施要綱 . . . . .	62

表紙にシブヤフォントのパターンを使用しています。

（タイトル「Family」、アーティスト：れおんさん、デザイナー：新井和花奈）

# 1 渋谷区子ども会議の概要

## (1) 目的・位置づけ

近年、国においては「こども家庭庁」の創設や、子どもの権利を明確に示した「こども基本法」の制定、そして「こども大綱」の策定など、子どもを社会の中心に据える“こどもまんなか社会”の実現が重要な方向性として掲げられています。こうした流れの中で、自治体にも子どもの意見をしっかりと受け止め、施策へ反映する仕組みづくりが求められるようになっていきます。

渋谷区では、国における子ども施策の動向を踏まえ、第3期「渋谷区子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。計画の策定にあたっては、こども基本法第11条の考え方に沿い、施策の策定・実施・評価に子どもや子育て当事者などの意見を反映することを重視しています。その一環として、ニーズ調査では子ども本人への質問項目を設け、日常生活や学校、地域に関する意見を聴取し、各所管において内容を確認しながら、計画や今後の施策の検討に生かしています。

渋谷区子ども会議は、こうした計画上の方向性をさらに広げ、子どもたちが自分の考えを直接伝えられる場として位置づけられています。計画では、子どもや若者の意見を社会に反映するための仕組みをつくっていくことが示されており、子ども会議はその具体的な方法のひとつとなる取り組みとなります。

## (2) 実施方針

渋谷区子ども会議の実施にあたっては、年度当初において、子どもの意見を実効的に聴取し、区政に反映していくことを目的として、企画・設計を行いました。

まず、こども基本法およびこども大綱の趣旨を踏まえ、子どもを権利の主体として捉え、その意見を尊重することを基本方針としました。あわせて、「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン（こども家庭庁）」を参考とし、子どもが安心して意見を表明できる環境づくりや、意見を丁寧に引き出す進行体制を重視しました。

参加対象年齢については、小学4年生から18歳までと設定しました。ガイドライン上で明確な年齢区分は示されていませんが、先行して同様の取組を行っている他自治体の事例を参考に、一定の言語的・思考的発達が見込まれ、意見を言語化しやすい年齢層を対象とすることが適切であると判断しました。

話し合うテーマについては、子どもの関心分野を複数確保しつつ、少人数での丁寧な意見交換を行うことを意図し、3つのテーマを設定しました。テーマ設定にあたっては、区役所内で区として対応可能なテーマを事前に整理したうえで、区立小・中学校の児童・生徒の意見をタブレット端末を通じて把握し、関心が比較的多かった「ごみやポイ捨て（環境）」「タブレットやデジタル（デジタル活用）」を採用しました。あわせて、区として重点的に取り組んでいる分野である「福祉」をテーマとして設定しました。

会議体については、子ども一人ひとりの発言機会を確保するため、1テーマにつき5名程度、全体で15名程度を基本構成としました。また、進行面・心理的配慮・内容理解を担保するため、各テーマにつき、ファシリテーター1名、補助（児童館職員）1名、関係所管職員1名をそれぞれ配置する体制としました。

会議は、全3回の話し合いと4回目の意見発表で構成し、回を重ねる中で意見を整理・深化させ、最終的に子ども自身の言葉で発表することを意図しました。さらに、お菓子や飲み物を用意するなど、子どもがリラックスして参加しやすい雰囲気づくりにも配慮しました。

役割	担当
企画・運営	子ども青少年課長 勅使川原 武 子ども青少年課子ども政策推進主査 佐藤 健生
ファシリテーター	認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 出野 恵子／鈴木 洋一／佐藤 美紗子／本川 優希
ファシリテーター 補助	児童青少年センターフレンズ本町 石原 梨奈／高萩 壮司 代官山ティーンズ・クリエイティブ 岡 磨理絵／忠地 由加
テーマ内容に関する説明・助言	教育指導課指導主事 統括指導主事 柳田 俊 環境整備課きれいなまちづくり係長 花形 快 障がい者福祉課福祉計画推進係長 岩田 有紀

### (3) 実施概要

① 日程

- ・令和7年10月 4日 第1回（導入・テーマ理解）
- ・令和7年11月15日 第2回（話し合い・グループワーク）
- ・令和7年11月29日 第3回（意見整理・提案づくり）
- ・令和7年12月13日 第4回（意見発表・意見交換）

※いずれも土曜日の14：00～16：30に実施

② 会場

渋谷区役所（第1・2・3回＝8階814会議室、第4回＝9階庁議室）

③ テーマ

環境、福祉、デジタル活用

④ 対象

渋谷区内在住・在学の小学4年生～18歳の人

⑤ 募集期間

令和7年7月25日～8月31日

⑥ 周知方法

渋谷区ポータル、渋谷区ニュース、  
施設でのチラシ配布、町会掲示板など

⑦ 申込方法

オンライン申請

⑧ 参加者 18人

学年	人数	学年	人数
小学4年生	2人	中学1年生	4人
小学5年生	6人	中学2年生	1人
小学6年生	4人	中学3年生	1人



募集チラシのイメージ

⑨ 参加者一覧（保護者より氏名の掲載許可を得ている16名のみ記載しています）

石橋 七海	狩野 伊栄	鈴木さん	中島 賢穂
伊與田 英鈴菜	北川 宗侍	尋木 嶺	長谷川 眞子
岡 龍之介	古賀 華於莉	田邊 有	藤原 維人
加藤 優郁子	下山 未紗	田邊 空	水野 圭一朗

## 2 各回の実施内容

### (1) 第1回

10月4日(土) 参加者17人

#### <おおよそのタイムスケジュール>

時間	内容
14:00~14:10	開会のあいさつ、子ども会議のルールやスケジュールの説明
14:10~14:30	自己紹介、アイスブレイク
14:30~15:00	こども基本法や子どもの権利条約などの説明
15:00~16:00	3つのテーマ(福祉・デジタル活用・環境)の説明
16:00~16:30	グループ分け、1回目の振り返り、次回に向けた宿題の確認

#### <目当て>

- ・子ども同士が仲良くなり、安心して話せる関係をつくること
- ・子ども会議がどんな場なのかを知ること
- ・「福祉」「デジタル活用」「環境」の3つのテーマについて学び、グループを決めること

#### <当日の様子>

当日は、はじめに子ども会議の目的や一日の流れについて説明があり、安心して話すためのルールをみんなで確認しました。会場にはお菓子や飲み物も用意され、子どもたちはリラックスした雰囲気の中で会議に参加していました。

その後、子ども同士で自己紹介を行い、「共通点を探すゲーム」を行いました。学年や学校がちがっていても、共通点がたくさんあることが分かり、会場の雰囲気がやわらぎ、意見を言いやすい空気が生まれました。



次に、動画やクイズを使いながら、子どもの権利や子ども会議の意味について学びました。子どもたちは、「子どもの意見が大切にされること」や、「この会議で出た意見が区の取り組みに生かされる可能性があること」を知り、真剣に話を聞いていました。

続いて、区の担当から、「福祉」「デジタル活用」「環境」の3つのテーマについて説明がありました。話を聞いたあと、グループに分かれて感想や意見を出し合い、自分や家族、学校での経験をもとに、感じたことを共有しました。短い時間ではありましたが、子どもたちはそれぞれのテーマを身近な問題として考え、積極的に発言していました。

最後に、次回から取り組む「福祉」「デジタル活用」「環境」の3つのテーマについて、子どもたちの希望をもとにグループ分けを行い、全体で一日のふりかえりを行いました。これにより、次回以降の話し合いに向けた準備が整いました。

## <子どもたちの意見・感想>

### ●福祉について

区職員より区の障がい者福祉について、「誰もが自分らしく暮らせるまち」を目指す考え方を、クイズ等を通じて説明がありました。参加者からは「見た目では分からない障がいもあるから、ヘルプマークが大切だと思った」「助けたい気持ちはあるけど、どう声をかけたらいいかわずかしい」「やりすぎの手助けは、逆に差別になることもあると知った」など、身近な家族や学校での経験を思い出しながら、福祉を自分のこととして考える意見が多く見られました。



### ●デジタル活用について

区職員より、渋谷区の教育におけるデジタル活用について、昔と今の比較から利点と課題の両面を説明がありました。参加者からは「デジタルは便利だけど、考えなくなりそうで心配」「紙の教科書の方が頭に入りやすい」「AIは使い方を間違えると、よくないと思った」など、デジタルの良いところだけでなく、不安な点についても自分の言葉で考える様子が見られました。

### ●環境について

区職員より、来街者の多い渋谷の特性を踏まえ、ごみや落書き問題などについてクイズ形式で説明がありました。参加者からは「ゴミ箱があると助かるけど、汚れているのが気になる」「落書きを消すだけじゃなくて、されない工夫を考えたい」「アートなら楽しく参加できそう」など、ふだんのまちの様子をよく見て、前向きな解決方法を考えようとする意見が多く出ました。



### ●全体の感想

「子どもの権利があることを初めて知った」「子どもの権利条約が守られていない人がいることを知った」「学校の校則やルールについて疑問を持った」「福祉やデジタル分野について新たな情報を知ることができた」など、学びと気づきを得る機会となったことが伝わる感想が多くありました。

## <第1回のまとめ>

目当て通り、子ども同士が打ち解け、安心して意見を出し合える関係をつくることができました。また、3つのテーマについて学び、自分の経験や気持ちをもとに意見を伝えることの大切さを実感できた回となりました。次回以降の話し合いに向けた土台が整った、重要なスタートの回となりました。

## (2) 第2回

11月15日(土) 参加者15人

<おおよそのタイムスケジュール>

時間	内容
14:00~14:10	開会のあいさつ、2回目の流れの説明、アイスブレイク
14:10~15:00	グループ内でそれぞれが持ち寄った宿題の発表・共有・議論
15:00~15:30	発表内容の絞り込み
15:30~16:00	グループ発表、グループ間での質疑応答
16:00~16:30	2回目の振り返り、次回に向けた作業や分担の確認

### <目当て>

- ・グループごとにテーマについての話し合いを深めること
- ・これから区に伝えたい内容の方向性を考えること
- ・次回までに取り組む宿題や役割を確認すること

### <当日の様子>

当日は、はじめに一日の流れを確認し、安心して話すためのルールを改めて共有しました。アイスブレイクとして最近うれしかったことや今の気持ちを伝え合い、落ち着いた雰囲気会で会議が始まりました。

その後、第1回で出された宿題について、子ども一人ひとりが調べてきたことや考えたことをグループ内で発表しました。自分の経験だけでなく、友だちや家族に聞いた意見、学校で感じていることなどを話し合い、「分かる」「それは大事だと思う」といった共感の声が多く聞かれました。

続いて、グループごとに話し合いを行い、出された意見をもとに、「特に大事だと思うこと」「みんなで伝えたいこと」を整理していきました。意見が分かれたときには、無理に一つに決めるのではなく、なぜ意見がちがうのかを考えながら話し合いが進められました。途中で休憩をはさみながら、話し合いを続け、後半には各グループが今の考えを全体に向けて発表しました。他のグループから質問や意見をもらうことで、自分たちの考えを見直したり、深めたりするきっかけにもなりました。

最後に、次回までに何をするか、誰がどの役割を担当するかを確認し、グループごとに感想を共有して第2回を終えました。



## <グループごとの話し合いの様子>

### ●デジタル活用グループ

タブレットやデジタル教科書について、「便利な点」と「困っている点」の両面から多様な意見が出されました。学力や健康への影響、使いづらさへの不満など課題が共有される一方で、全員が意見を出しやすい点などの利点も挙げられました。話し合いを通して、デジタルをやめるか続けるかという二択ではなく、選択制や使い方の工夫により、よりよい活用方法を考える方向へと議論が深まりました。

### ●環境グループ

ごみのポイ捨てや落書きについて、まちで実際に見たことや調べてきたことをもとに意見を出し合いました。「なぜなくなるのか」「どうすれば減らせるのか」を考える中で、現実のむずかしさも感じながら、具体的なアイデアを考えていました。



### ●福祉グループ

ヘルプマークや障がいのある人との関わりについて、自分や家族、学校での体験をもとに意見共有が行われました。話し合いを通して、「困りごとをどう伝えるか」「やさしさが差別にならない支援とは何か」といった視点が共有され、ヘルプマークの周知、緑化、差別なく交流する仕組みの3つを提案テーマとして整理しました。

## <第2回のまとめ>

グループごとにテーマへの理解が深まり、「自分の意見を伝える」だけでなく、「みんなの意見としてまとめる」ことの大切さを学ぶ回となりました。また、第4回目の意見発表に向けて、何を調べ、何を伝えたいのかが少しずつはっきりしてきました。



### (3) 第3回

11月29日(土) 参加者15人

#### <おおよそのタイムスケジュール>

時間	内容
14:00~14:10	開会のあいさつ、3回目の流れの説明
14:10~14:30	グループ内でそれぞれが持ち寄った宿題の発表・共有・議論
14:30~15:00	提案資料作り
15:00~16:00	発表のポイントのレクチャー、発表の練習
16:00~16:30	3回目の振り返り、次回に向けた作業や分担の確認

#### <目当て>

- ・これまでに集めた意見や調査結果を整理すること
- ・区長に伝える発表内容をはっきりさせること
- ・発表に向けて役割分担や準備を進めること

#### <当日の様子>

当日は、いつものように一日の流れと目当てを確認し、安心して話し合うためのルールを共有しました。

その後、第2回以降に行ってきた宿題について、各自が調べてきたことや集めてきた意見をグループ内で発表しました。発表では、クラスメイトや友だちへのアンケート結果、インターネットや資料で調べた内容などが紹介され、それぞれのテーマについて、より具体的な話し合いが行われました。

続いて、グループごとに話し合いを行い、「発表で一番伝えたいことは何か」「どの順番で話すと分かりやすいか」を考えながら、発表内容を整理していきました。途中で休憩をはさみながら、資料づくりやスピーチの内容を考える時間も設けられました。必要に応じて、担当の方に質問をしたり、アドバイスをもらったりしながら、準備を進めました。

後半には、発表のポイントについての説明があり、声の出し方や伝え方についても確認しました。

その後、グループごとに役割分担を行い、「誰がどの部分話すのか」「どんな資料を使うのか」を決めました。

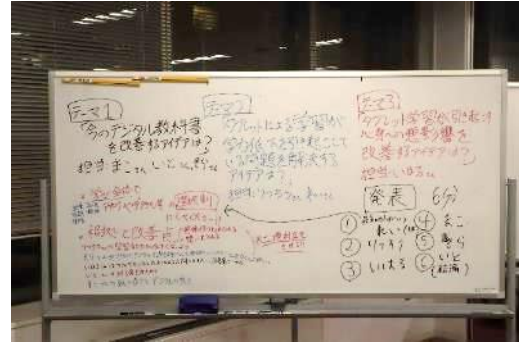
最後に、意見交換会の流れについて説明を受け、次回までに行う準備を確認し、グループごとに感想を共有して第3回を終えました。



## <グループごとの話し合いの様子>

### ●デジタル活用グループ

デジタル教科書やタブレットについて、メリットとデメリットの両方を整理しながら、「選ぶようにすること」や「使い方を工夫すること」を中心に、発表内容をまとめていました。



### ●環境グループ

ごみのポイ捨てや落書きについて、クラスメイトへのアンケート結果や持ち寄った具体的な対策案をもとに議論を行いました。落書き対策ではポスターやLINE通報などの案が多く挙げられ、ごみ対策では外国人への伝え方や捨てたくなる工夫などのアイデアが出されました。これらを整理し、「どの案をどう伝えるか」を意識しながら、最終発表に向けた内容の整理と役割分担を進めました。



### ●福祉グループ

ヘルプマークや交流の機会について、第2回までに整理した内容をもとに、相手の立場も考えながら、伝え方や言葉選びに気をつけて発表準備を進めていました。第3回では、スライドやスピーチの内容を確認し、細かな表現の調整や役割分担を行うなど、最終発表に向けた仕上げを行いました。



## <第3回のまとめ>

これまでに出てきた意見や考えを整理し、区長に伝えるための発表として形にしていく段階に進むことができました。子どもたちは、「どうすれば伝わるか」「聞く人に分かりやすいか」を意識しながら、協力して準備を進めていました。第4回の意見発表に向けて、内容と役割がはっきりし、自信をもって発表に臨むための土台が整った回となりました。



#### (4) 第4回

12月13日(土) 参加者16人

##### <おおよそのタイムスケジュール>

時間	内容
14:00~14:30	開会のあいさつ、4回目の流れの説明、発表練習、 (庁議室へ移動)
14:30~14:50	開会のあいさつ、これまでの会議の説明、アイスブレイク (区長らを変えたジェスチャーゲーム)
14:50~15:50	各グループの意見発表、意見交換 (デジタル活用、環境、福祉の3テーマ、各20分程度)
15:50~16:10	区長らと自由討論、講評、記念撮影
16:10~16:30	(814会議室へ移動) 感謝状授与、子ども会議全体の振り返り

##### <区の出席者>

役職	氏名	役職	氏名
区長	長谷部 健	環境政策部長	飛田和 俊明
副区長	松澤 香	環境整備課長	吉澤 卓哉
教育長	伊藤 林太郎	障がい者福祉課長	小林 由江
子ども家庭部長	富井 一慶	財政課財政主査	北 奈津希

##### <目当て>

- ・これまでの話し合いの成果を区長に伝えること
- ・自分たちの考えを、自分の言葉で発表すること
- ・区の担当の方と意見交換を行い、学びを深めること

##### <当日の様子>

当日は、発表前に全体で集まり、これまでの取り組みをふりかえりながら、発表の流れや立ち位置などを確認しました。希望した子どもたちは、スライドを見ながらスピーチの練習を行い、緊張をほぐしながら本番に備えました。

発表会場に移動した後、区長の入場を迎え、会議が始まりました。はじめに、緊張をやわらげるためのアイスブレイクを行い、会場全体があたたかい雰囲気になりました。

その後、「デジタル活用」「環境」「福祉」の順に、各グループがスライドを使いながら発表を行いました。発表では、問題だと感じていることだけでなく、「どうしたらよくなるのか」「自分たちは何を大切にしたいのか」を、子どもたち自身の言葉で伝えていました。

発表のあとには、区長や担当課の方からコメントや質問があり、子どもたちは一つひとつに答えながら、意見交換を行いました。自由に意見を言える時間もあり、子どもたちは緊張しながらも、自分の考えをしっかりと伝えようとしていました。最後に、区長から全体への言葉があり、これまでの取り組みへのねぎらいや、今後への期待が伝えられました。

その後、区長らと一緒に集合写真の撮影を行った後、別室へ移動し、感謝状（参加証）の贈呈を行うとともに、チームごとにこれまでの取り組みを振り返り、発表を終えた感想や今後に向けた思いを共有しました。最後に、全体のまとめとしてあいさつがあり、意見発表を締めくくりました。

## <意見発表と意見交換の様子>

### ●デジタル活用グループ（→発表資料はP. 21～27参照）

意見発表では、「学び全体でアナログやデジタル等の選択制にしてほしい」という提案を軸に、授業・宿題、教材、教科など、学習のいろいろな場面で“どちらか一方に決めるのではなく、選べる仕組み”が大切だと伝えました。



学校での体験として「デジタル導入後に提出率が下がった」「タブレットのゲーム機能などで集中しづらい」という声が紹介され、デジタルを使う目的が見えなくなることへの不安が語られました。

また、デジタル学習の使用時間と正答率に関するグラフを根拠に「30分未満は正答率が高いが、それ以上は下がる」という説明があり、タブレットを使う授業時間の目安について具体的な提案もありました。

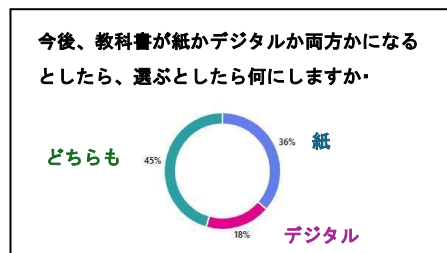
タブレット学習		紙での学習
○	勉強へのハードル	△
○	わかりやすさ	△
○	勉強の効率	△
△	書きやすさ	○
△	記憶しやすさ	○

一方で「プログラミングクラブは楽しい」など、デジタルの良さも認めた上で、「動画を見るだけの授業が増えてほしくない」といった“使い方の工夫”に焦点を当てていました。さらに、紙とデジタルのアンケート結果（紙・デジタル・両方）を示し、「どちらにも良さがあり、場面に応じて使い分けることが大切」という整理がなされました。

### ●デジタル活用についての意見交換

教育長から「選択するのは誰か」という問いが投げかけられ、子ども側からは「保護者や生徒が話し合って選ぶ」「单元ごとに紙／デジタルを選んで学ぶ」といった具体的なイメージが示されました。教育長は「選択の主体は子どもである」という点に賛同し、学校でも子どもが学び方を提案していけることに期待が示されました。

区長からは、「これからの時代、デジタルに触れる力はやはり必要だと思う。できれば小さい頃から慣れて欲しい。でもアナログの良さもある」という考えが述べられ、教科や目的によって向き不向きがあるのではないか、という観点が示されました。これに対し、子ども側から「小中学校からデジタルを使わないと将来困るのか」という問いが出され、区長は「探究学習などではデジタルが必要で、早い段階から慣れることが有利だと思う」という考えを伝えました。やり取りの中で、子ども側が「納得しきれない」と率直に返す場面もあり、立場の違いをふまえた対話が行われました。



## ●教育長のコメント

みなさんの発表はとても分かりやすく、私たち大人がずっと悩んでいるテーマの大事なところをしっかりと突いていると感じました。特に、『紙かデジタルか』という二つに分けて考えるのではなく、『選択制』という形で提案してくれた点は、とても良かったと思います。学び方を選ぶ主体が子ども自身である、という考え方には、私たちも賛成です。授業は先生だけが作るものではなく、本当は子どもと一緒に、どう学ぶかを考えていくものだと思っています。実際に学校現場でも、『今日はこのやり方の方がいいのでは』と意見を言う子どもたちの姿が見られます。

教育にデジタルを使うことについては、すぐに結果が見えるものではなく、現時点でははっきりした答えが出ていない分野でもありますが、デジタルに慣れ親しんできた世代ならではの学び方や変化が、これから少しずつ見えてくるのではないかと感じています。



## ●環境グループの意見発表（→発表資料はP. 28～36参照）

環境グループは「落書き」と「ポイ捨て」の二つの課題を取り上げ、調査結果と具体案をセットで発表しました。

落書きについては、対策アンケートの結果を示し、「落書きについての授業を増やす」が最も多かったこと、次いで「ポスター」「LINE通報」が支持されたことが共有されました。

その上で、LINE通報は利用者が多いはずなのに認知度が低いという課題を示し、授業やポスター、防災無線、館内放送、ハチパトでの放送、マスコットキャラクター等で周知する案が提案されました。

ポスター案については、「落書きされている／されていた場所や暗い場所など、狙われやすい場所に貼る」といった具体的な貼り方・見せ方が述べられました。



また、落書きの授業案では「講師が話しすぎない」「クイズやゲームで学ぶ」「短く簡単に」「学校・公共施設・公園・イベント会場など、いろいろな場所で実施する」と、子ども目線の“参加しやすさ”が工夫として挙げられました。

ポイ捨てについては、①日本語が分からない人に分別をどう伝えるか、②ごみを捨ててもらおう／減らすための提案、の二本立てで整理されました。

①では「国ごとの代表を決めて会議形式で伝える」「具体例を示す」「質問を受け付ける」「実物のごみや容器を使う」といった“伝え方”のアイデアが提示されました。

②では「バズるごみ箱」の提案があり、渋谷らしい形（スクランブルスクエアをイメージ）、ライトや表示、捨てたら「ありがとう／Thank you」など反応が返る仕掛けなど、注目を集めて捨てる工夫が示されました。



### ●環境グループの意見交換

担当職員から「授業で広める」提案の意義や、ごみ対策に区として力を入れていることへの言及がありました。副区長からは「関心を持ってもらう工夫がクリエイティブ」「スライドも分かりやすい」といった評価が述べられました。



子ども側から区長へは「LINE 通報の件数」について質問があり、区長から「通報はたくさん届

いていて、順番に対応している」旨が説明され、認知拡大の必要性について対話が続きました。

また区長からは、ポイ捨て対策について「住民税との関係」「事業者の責任」「条例による働きかけ」など、行政としての考え方が語られ、子どもたちの提案を踏まえて「どう捨てない人を増やすか」という今後の課題も共有されました。

### ●きれいなまちづくり係長のコメント

発表を聞きながら、皆さんがとても身近なところから問題を見つけ、しっかり調べたうえで提案してくれたことが伝わってきました。特に、落書きやごみの問題について、「どうすれば知ってもらえるか」「どうすれば関心を持ってもらえるか」という視点で考えられていた点が、とても印象的でした。行政では、どうしても「どう対応するか」「どう取り締まるか」に意識が向きがちですが、皆さんの提案には、「描かせない」「捨てさせない」ための前向きな工夫が多く含まれていました。

授業やポスター、通報の周知など、すぐに参考にできそうなアイデアもあり、今後の取り組みを考えるうえで、大変参考になりました。今回の提案をきっかけに、まちをきれいにする仲間が増えていくことを期待しています。

## ●福祉グループの意見発表（→発表資料はP. 37～47参照）

福祉グループは、①障がいに関係するマークの周知、②差別をなくすための交流、③福祉×緑化の3つの提案を行いました。

①「助けたい気持ちはあっても助け方が分からない」ことが、席を譲れない背景にあるのではないかという問題意識が示されました。その上で、駅や公共施設での分かりやすいポスター掲示や、公式ウェブサイトでマークの意味や配慮の仕方を具体的に伝えることを提案しました。ポスターにはQRコードを掲載し、公式情報につなげるなど、子どもから大人まで分かりやすい工夫が示されました。

②障がいのある人への理解不足が差別につながるという考えから、小中学生世代のうちに交流機会を増やすことを提案しました。交流の具体案として「音楽撮影会（音楽に合わせて演奏・踊り、それを撮影し、みんなで見る）」が示され、「騒いでも大丈夫」「役割が複数あるので自分に合った形で参加できる」「一体感が生まれる」といった理由が説明されました。

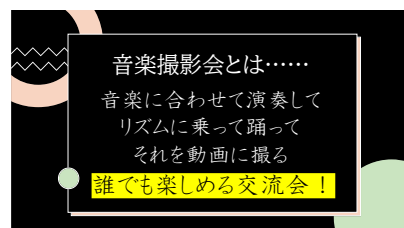
③「だれもが同じ感覚を持てる渋谷」を目標に、緑を増やすことがストレス改善や健康増進につながるという考えを示しました。公共施設の屋内外に緑を増やす案や、自然音を流す案、誰でも参加できる植栽企画、植物に触れるゲームなど、参加しやすい形の提案が行われました。



## ●福祉グループの意見交換

①の提案については区長から「時期ごとのキャンペーン等はあるが、マークをまとめて学べる工夫は十分ではなかった」という認識が語られ、「クイズ形式で覚えられるようにするのも面白い」といった反応がありました。

②の提案については、教育長から「前例があると学校で進めやすい」という観点で質問があり、子ども側が内容を具体的に説明しました。これに対し、教育長が実施に向けた働きかけについて後押しするやり取りも見られました。また、子ども側からは「ちがいをちからにかえるまち」という理念に触れつつ、学校で交流が少ない現状への問いが出されました。これに対し、区長からは、年齢が上がるにつれて学び方の差が出てくる難しさなどの課題を認めつつも、「交流の機会を増やしていきたい」という方向性が語られました。



③の提案に対しては、「全員が参加できる植栽企画」などを通じて、障がいの有無にかかわらず関われる点や、多様性に配慮した設計が特徴的であり、担当課長からは、設備整備といったハード面にとどまらず、人と人の関わりや気持ちの面を大切にする「心でつながる（心のバリアフリー）」という視点に共感が示されました。

さらに副区長からは、屋内緑化や自然音などの提案について、ストレス軽減を通じた病気の予防・未病といった社会課題と結びつけた視点が評価され、身近な環境や日常の工夫から実践できる提案として受け止められていました。

## ●障がい者福祉課長のコメント

このたびは心のこもった発表をありがとうございました。特に印象に残ったのは、制度や設備といった「ハード面」だけでなく、人と人の関わり方や、気持ちの部分に目を向けた提案が多かったことです。

「どうすれば一緒に楽しめるか」「どうすれば無理なく関われるか」といった視点は、私たち行政にとっても、とても大切な気づきでした。実際に、学校や事業所の中には、すでに交流を行っている例もありますが、まだ限られているのが現状です。今回出されたようなアイデアをきっかけに、交流の輪が少しずつ広がっていくよう、私たちも考えていきたいと思えます。

皆さんのような考えを持った子どもたちが増えていくことが、やさしい社会につながっていくと感じました。



## <自由討論>

自由討論では、発表内容に関連する質問に加え、子どもたちが日ごろ感じている身近な課題について、具体的な経験をもとに意見が出されました。

地域行事については、「代々木の杜盆踊りが中止になるかもしれないと聞き、なぜ続けられなくなったのか調べると、主催者の高齢化や担い手不足が理由だった」といった発言があり、「どうすれば昔から続いてきたお祭りを守れるのか考えたい」という問題提起が行われました。これに対し、区長からは「まず声をあげて人を集め、続ける動きをつくるのが大切」との応援のコメントがありました。

また、学校での学びについては、「シブヤ未来科は好きだが、子どもが自分で企業や地域に連絡を取れるようにしてほしい」「授業で使っているアプリを、実際に区長にも見てほしい」といった声が出され、区長や副区長、教育関係者が子ども主体の学びのあり方について考え方を示しながら対話が行われました。

さらに、環境分野ではごみのポイ捨て対策に関する発信の工夫や、有名人の協力による啓発の可能性などが話題となり、子どもたちの提案に対して区長が前向きな姿勢を示しました。

最後のまとめでは、区長・副区長から、子どもたちの提言が具体的で鋭かったこと、デジタルを活用したからこそアナログとの向き合い方を考えられたことが評価されるとともに、「ここで終わりではなく、ここからがスタート」であることが共有されました。



### <区長講評>

みんなが自分の身の回りで感じたことを出発点に、調べて、考えて、ここまでまとめてくれたことを、とても頼もしく感じました。大人が決めた答えに合わせるのではなく、「これはどうなんだろう」と疑問を持って話してくれたこと自体が、すごく大事だと思っています。

デジタルの提案では、これからの社会ではデジタルが必要だという前提を踏まえつつ、「全部デジタルでいいのか」「アナログの良さはどうなるのか」という視点が出てきました。電気が止まったらどうするのか、書く力や考える力はどう育つのか。どちらか一方を選ぶのではなく、場面に応じて使い分ける、両方の力を身につけてほしいというのが、僕の考えです。

環境の提案では、落書きやごみの問題を、「どう減らすか」だけでなく、「どうしたら捨てない人を増やせるか」という視点で考えてくれていました。LINE 通報の認知度アップの話も、街をみんなで見守るという意味で、とても前向きなアイデアだと思います。

福祉のテーマでは、「ちがいをちからにかえる」という渋谷区の考え方に、しっかり向き合ってくれました。分けるのではなく、どう一緒に過ごせるか、どう自然に理解を広げるか。まだ道半ばですが、こうした声があることで、まちは少しずつ変わっていくと思います。

この取り組みは、ここで終わりではありません。思ったことを声に出し、行動につなげていくことが大切です。これからも遠慮せずに意見を出してください。ありがとうございました。



### <副区長講評>

皆さんの発表を聞いていて、「どうやったら知ってもらえるか」「どうやったら関心を持ってもらえるか」を、すごく真剣に考えてくれていたと感じました。行政の仕事をしていると、どうしても現実的な制約や制度から考えてしまいがちですが、皆さんの発想はそこにとらわれていなくて、とても新鮮でした。

環境の提案では、落書きやごみの問題を、ただ「だめだ」と言うのではなく、「どう防ぐか」「どう捨てさせないか」という視点で考えてくれていました。注目してもらう仕掛けや、楽しさを取り入れる工夫は、行政だけではなかなか出てこないアイデアで、目からうろこでした。スライドも分かりやすく、「伝える力」がしっかりあるなと思いました。

福祉のテーマでは、「ちがいをちからにかえる」という言葉を、具体的な形にしようとしていたのが印象的でした。音楽撮影会の提案も、役割が分かれていて、誰でも参加できる工夫がされていて、違いがあるからこそ一緒に楽しめる、そんな場面が自然に想像できました。

今回出た提案の中には、すぐに活かせるものもありますし、時間をかけて育てていくものもあります。いずれにしても、皆さんの声や発想は、これからの渋谷区にとって大きな力です。ありがとうございました。



## <意見発表・意見交換を終えた参加者の感想、振り返り>

意見発表・意見交換を終えた後に参加者から出た感想をまとめました。

### ●発表を終えての気持ち

- 「とても緊張したが、最後まで発表できてほっとした」
- 「自分の意見を大勢の前で伝えられて、達成感があった」
- 「これまで準備してきたことを出し切れたと感じた」
- 「発表が終わって、楽しかったという気持ちの方が大きかった」



### ●話し合いや準備を通して感じたこと

- 「みんなで意見を出し合うことで、考えが深まった」
- 「最初は意見を言うのが難しかったが、回を重ねるごとに話しやすくなった」
- 「自分とは違う考えを聞いて、新しい視点に気づくことができた」
- 「話し合いの中で、相手の意見を大切にすることを意識するようになった」

### ●区長たちとの意見交換について

- 「大人が真剣に話を聞いてくれてうれしかった」
- 「質問をされて、自分たちの考えを深く考え直すきっかけになった」
- 「意見がすぐに全部は実現しなくても、伝えることが大事だと思った」
- 「自分たちの声が区に届いていると感じられた」

### ●子ども会議に参加して得た学び・変化

- 「自分の考えを言葉にして伝える力がついた」
- 「社会のことを自分ごととして考えるようになった」
- 「話し合いの場では、聞くことも大切だと学んだ」
- 「これからも意見を言うことを大事にしたいと思った」



### ●改善点・もっと良くしたいと感じたこと

- 「発表の時間が短く、もっと話したかった」
- 「緊張して、言いたかったことを全部は伝えきれなかった」
- 「準備の時間がもう少しあると安心できたと思う」
- 「スライドづくりや役割分担を、早めに決められるとよかった」
- 「質問にすぐ答えるのが難しかったので、考える時間があるとよかった」

### ●今後に向けた感想

- 「今回の経験を、これからの生活にも活かしていきたい」
- 「また機会があれば参加したい」
- 「次はもっと自信を持って発表したい」
- 「学校や身近な場面でも、意見を伝えてみたい」

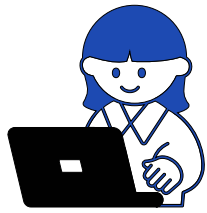
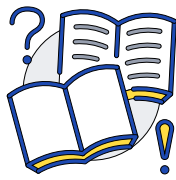




### 3 提案資料 ※提案内容の趣旨を損なわない範囲で、著作権への配慮から一部の画像を差し替えています。

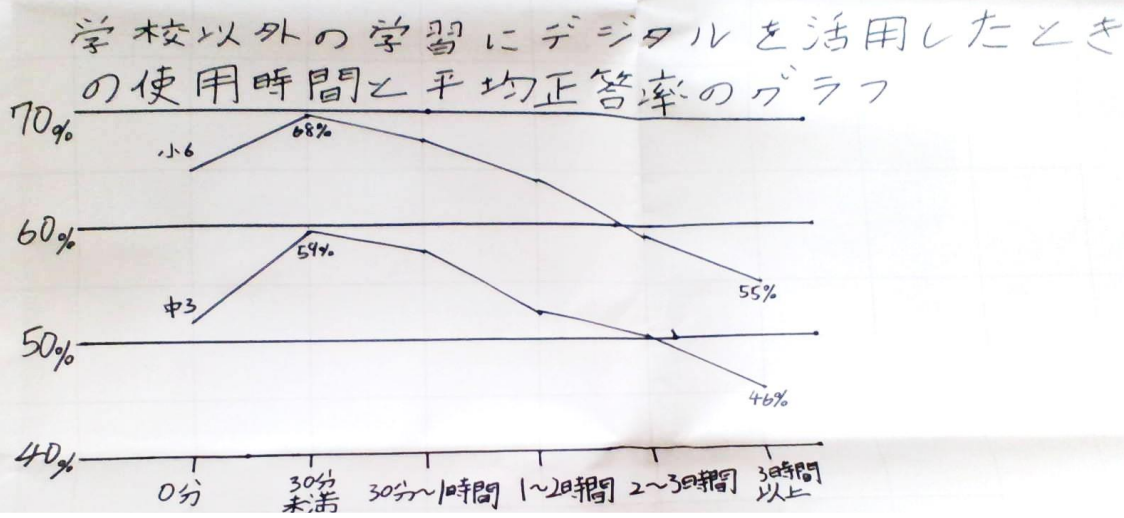
#### (1) デジタル活用

・授業・発表・宿題  
・教材・連絡

## 学び全体でアナログやデジタル等の選択制にしてください!!



タブレット学習	 	紙での学習
○	勉強へのハードル	△
○	わかりやすさ	△
○	勉強の効率	△
△	書きやすさ	○
△	記憶しやすさ	○



引用 東京新聞 2025年6月18日朝刊

デジタルが起こす身体への悪影響

- ①視力の低下…ブルーライト  
放つ目に負担悪くなる
- ②デジタル首…ずっと同じ姿勢  
勢疲れる

デジタルを使って体に良くなること

①体育の時間などにカメラで動画を撮る…確認をすることでどこがダメだったのかを認識

②NHK for schoolでお手本を見る…お手本を見ることでどこを意識するかとかが分かる

デジタルだけ使えたときのいいところ

デジタルだけ使えた時にいろんなことができるかもしれない

すべてが楽になった

デジタル化の例↓

キャッシュレスになって電子マネーが使われるようになった

ペーパーレスになった

### デジタルだけ使えた時の悪いところ

災害時などにインターネット、デジタルが使えなくなって何にもできなくなる

災害時にパソコンなどデジタルが使えなくなるから紙になるが紙がうまく使えない

### アナログだけ使えた時の悪いところ

これからの未来でアナログしか使えなかったら…

お風呂を沸かすときとかボタンが分からなくて困ったりする

車がデジタルになるから車に乗れない

アナログが使えたらいいところ

正しい情報が手に入る

手書きの手紙を送れたりするから相手との  
信頼が深まる

両方とも使えたら

ほぼ完ぺき

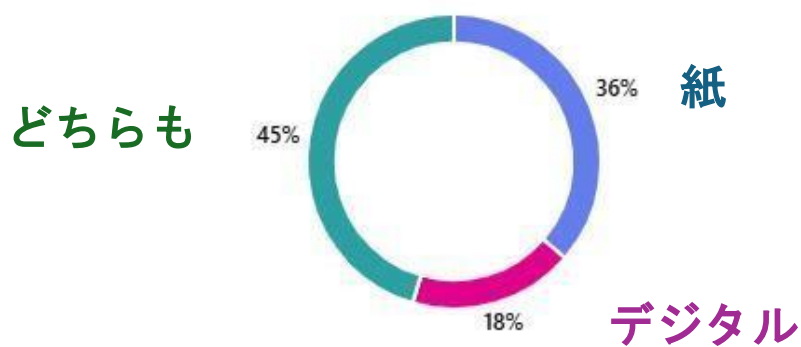
どんな状況でも対応できる

どっちも使えるから体的にも変な首  
にもならないし筆圧が弱くなること  
もない

## 結論

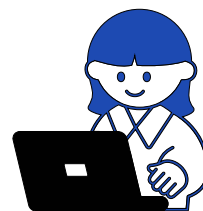
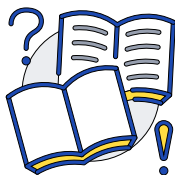
未来にどっちも使えるように  
選択制にしてほしい

今後、教科書が紙かデジタルか両方かになる  
としたら、選ぶとしたら何にしますか・

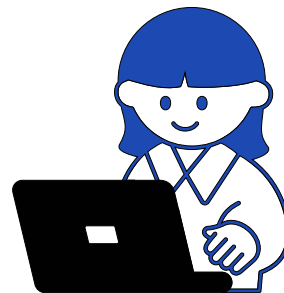
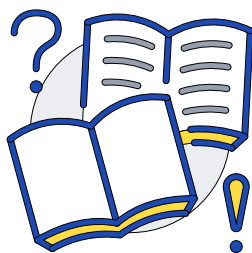


- ・授業・発表・宿題
- ・教材・連絡

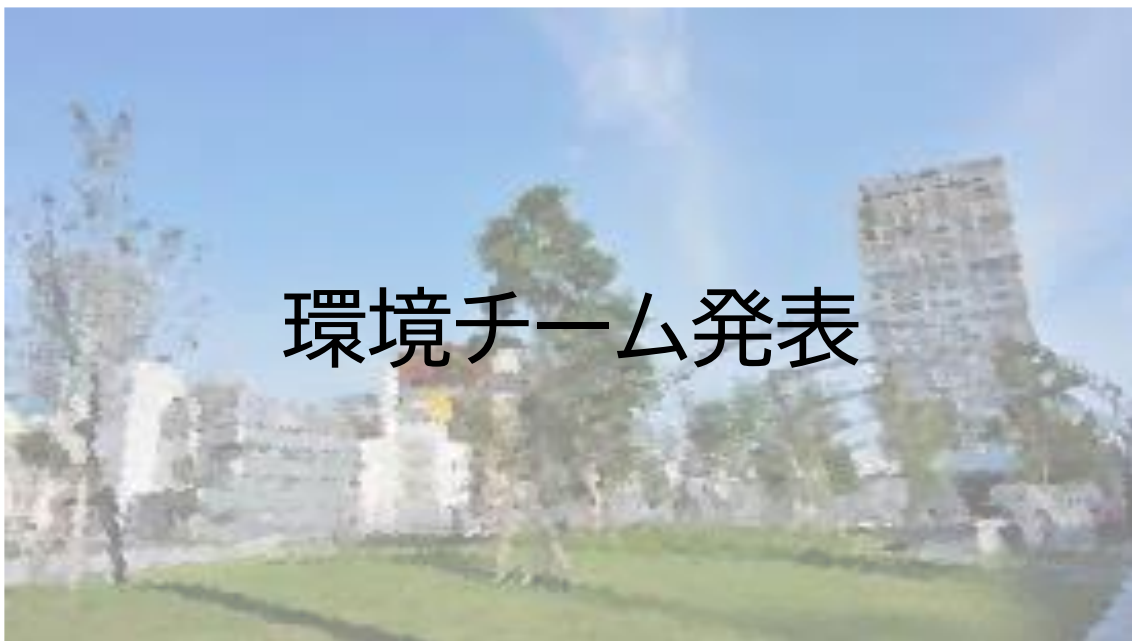
**学び全体でアナログやデジタル  
等の選択制にしてください!!**



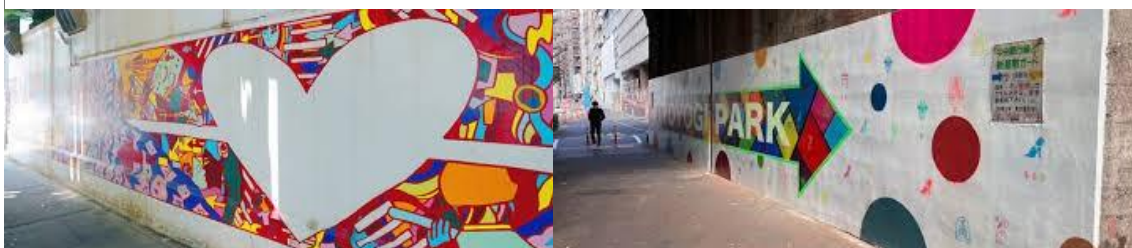
**ありがとうございました！**



(2) 環境



まずは、落書き班です。



※渋谷区落書き対策プロジェクト HP より引用

## 落書き対策アンケート調査結果

実施期間: 2025年11月15日～11月28日まで

	全体数(116名)	中1(私立60名)	小6(区立28名)	小4(区立28名)
落書きされそうな場所を落書きされても落としやすいシリコン加工をする	10	2	1	7
落書き防止のポスターを張る	28	18	7	3
落書きがあったことを区に知らせる「LINE通報」を広める	28	18	6	4
夜間に落書きされそうな場所にライトをつける	11	1	6	6
落書きについての授業を増やす	30	18	6	3
その他	8	1	4	5

その他には・・・「スプレーを売るときにどういう人が聞く(なんのために使うか)」

「落書きが犯罪だということを知らせる」

「外国人の人が日本に来るとき空港でマナーを伝える」

「書きやすい所をなくす」

「もし落書きして捕まった人がいるならその人になぜしたか聞いてそうならないようにする」

# LINE通報

いきなりですが、僕の中学校のクラスは全員がLINEを使っています。

皆さんもLINEを使っていると思います。



落書きのLINE通報は多くの人に知られているはずです。

# しかし



## ポスターで落書きを防げ！！

- 私たちは落書きを防ぐために、クラス内や学年でアンケートをとりました。
- その中で小学生上位にあったポスターについて説明します。
- 利点
- 落書き犯に直接訴えられる。落書きされている、されていたところに張ることで効果が上がります。
- 張るべきところ
- 落書きされている、されていたところ、暗いところなど。



ポスター張るべきところとポスター  
※イメージです

※北九州市、岸和田市、横浜市、渋谷区落書き対策プロジェクト それぞれの HP より引用

## 面白い授業で落書きを止めろ!!

面白くするために

講師が一方向的に話しすぎない

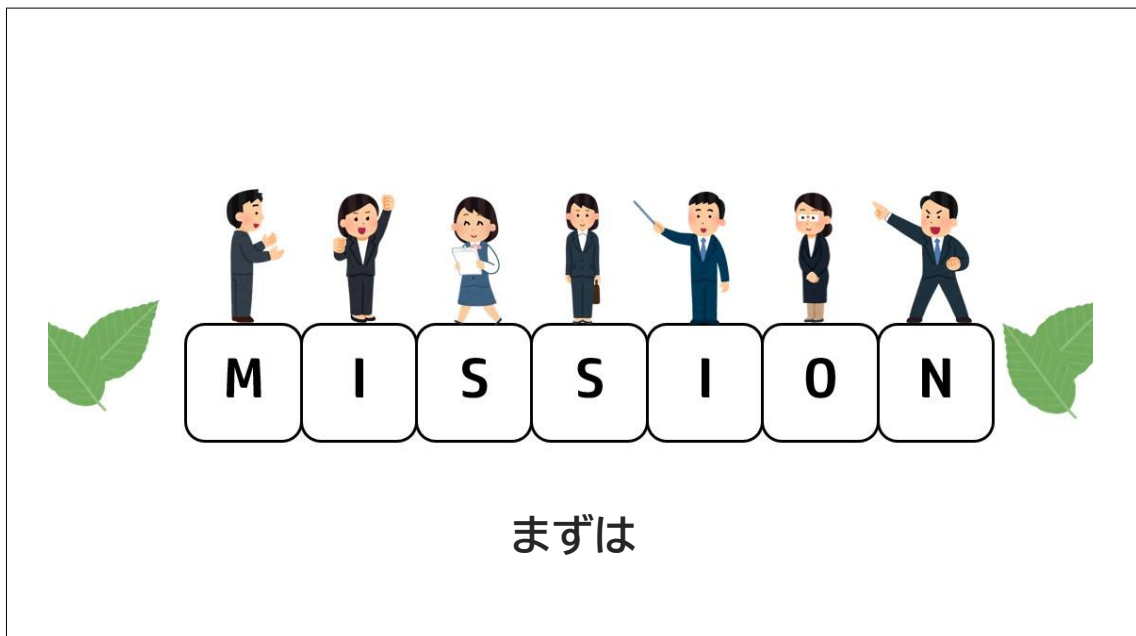
- クイズや、ゲームなどをやりながら学べる
- 色んな人に知ってもらうために短く簡単にする
- 色んな人に知ってもらうために色んな場所で開く

授業したら良い場所

- 学校
- 公共施設
- 公園
- イベントして居るところ など



イメージ画



①日本語のわからない外国人に分別などについてどう伝えるか



②ごみを捨ててもらったり、減らすための提案



ご清聴ありがとうございました



### (3) 福祉

## 障害者マーク

### ポスター

- いろいろな障害者マークとその意味の説明を書く
- 端にQRコードから、公式ホームページで、もう少し具体的に説明をいれる。
- 配慮の仕方を書いて、お年寄りから子供もみんなわかるようなポスターにしたい

### 私が伝えたいこと

渋谷区民・旅行で渋谷を訪れている障害を持った人・外国人  
どんな人も差別なく過ごせて、障害にもっと理解がある渋谷にしたいです。

いろんなマークを知ろう！  
ほかにもあります。

ヘルプマーク



オストメイト  
マーク



国際シンボル  
マーク



補助犬マーク



耳マーク

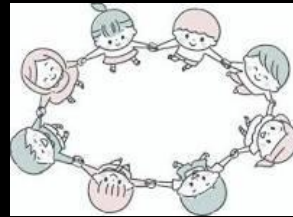


ハートプラス  
マーク



# 差別がない 渋谷へ

福祉グループ 差別なく交流班



差別のない渋谷に  
するために  
音楽撮影会を行う

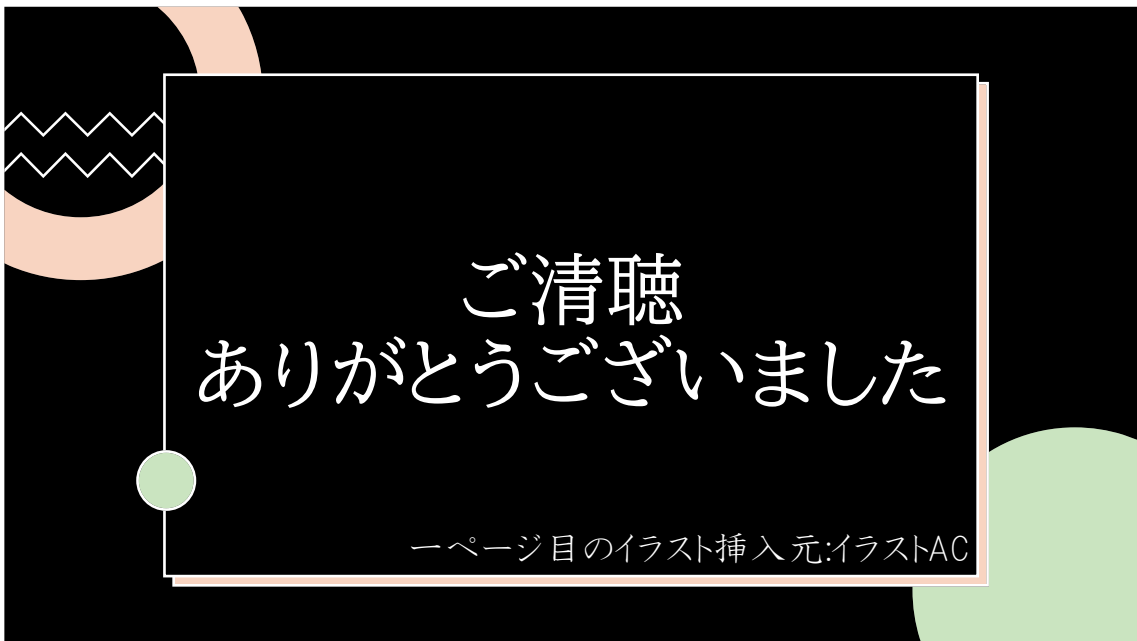
## 音楽撮影会とは……

音楽に合わせて演奏して  
リズムに乗って踊って  
それを動画に撮る

誰でも楽しめる交流会！

## 音楽交流会の いいところ

- 一体感がうまれる  
→ 仲良くなれる
- 騒いでしまっても大丈夫
- 自分に合った活動ができる





**【だれもが同じ感覚をもつことができる渋谷】**

- 目が見えにくい人も植物や木のにおいなどで**緑**を感じることができる。
- 同じことをやってみることで交流が生まれる。
- 『障がい者』『健常者』などの区切りをなくし、**【誰もが同じ感覚を持つことができる渋谷】**を実現したい。

## なぜ緑化？

☆緑を増やすことで、**ストレス改善**・**地球温暖化の緩和**・**心身の健康増進**



## 緑化 = 健康増進に繋がる事例

①病室の窓から緑が見える患者が、病室の窓から緑が見えない患者よりも、**術後の回復が早い**という報告があります。

②病気を直接完治させるより、病気にかかりにくい体を体調の維持や、病中・病後における機能回復に役立つ補完・代替医療としての可能性が期待されている。

## 提案 1

目的：誰もが癒される渋谷

公共施設の屋外・屋内に緑を増やす  
(インテリアとしてではなく！)

- 厚生労働省の国立病院では、病院内に緑を設置する『ガーデンホスピタル構想』を行っている。



**これを区で行いたい！**  
**区役所・図書館など**

人間の耳には聞こえない高周波の音

- 国立精神・神経医療研究センターの研究結果によると、自然の音の高周波を多く浴びると脳が活性化し、リラックスしたときに出る $\alpha$ 波が増え、ストレスホルモンが低下することが分かっている。



カフェなどで自然の音(鳥・水の音)を流す × 緑を増やす

NASAが認めた、植物

### • アレカヤシ

#### 【特徴】

- ☆空気清浄効果が高い
- ☆手入れが簡単
- ☆見るだけで癒しの効果



## 提案 2

目的：誰もが関わることができる渋谷

### 全員が参加できる植栽企画

#### 【対象】

だれでも参加可能！

→障がいの有無関係なく、関われる企画

#### 【場所】

・夏冬：屋内 春秋：屋外

#### 【内容】

- ・カラフルな花などをハートや星などの枠の中に植えることで楽しむことができる。(季節によって花の種類を変える)
- ・高さを調節する。
- ・花の種類やチョイスは、花を植えることが難しい子たちに選んでもらったり、枠の形を考えることができる

## 植物を触ってみようゲーム

### 【対象】

誰でも参加可能！

### 【場所】

・屋内

### 【内容】

- ・におい(アロマなど)
  - ・面白い形を触る  
(アフelandラ ホワイトウォッシュなど)
  - ・季節のもののアロマや植物
- 触ったもの、嗅いだものの中で好きか、嫌い  
か予想してみる



## まとめ

提案1：公共施設の屋外と屋内に緑を増やす

提案2：全員が参加できる植栽企画  
植物を触ってみようゲーム

ご清聴ありがとうございました

## 4 子ども会議参加者の提案に対する渋谷区の回答

### (1) デジタル活用

デジタル／アナログの両面について、体験やアンケートをもとに考え、「選べる学び」という提案をまとめてくれたことを、確かに受け取りました。簡単に答えが出ないテーマに対して、何度も話し合い、意見を整理し、根拠をもって言葉にして提示してくれたことは、とても価値のある取り組みでした。



みなさんの提案は、「デジタルがよい」「アナログがよい」と決めつけるのではなく、学ぶ目的や場面に応じて使い分けることが大切だという考え方に立っています。この視点は、渋谷区だけでなく、国が進めている教育の考え方とも重なっています。デジタルは、調べ学習や表現、共有の場面で力を発揮します。一方で、紙を使った学習には、集中しやすさや考えを広げたり深めたりしやすい良さがあります。どちらか一方ではなく、両方の良さや課題を見ようとした点が、今回の提案のすばらしさです。

学校や家庭、学年によって、また、一人ひとりによって、デジタルの使い方や感じ方が違うことも、話し合いの中で明らかになりました。私立・区立を問わず、さまざまな立場の声が出たことは、「学びに正解は一つではない」ということを、私たち大人にも改めて気づかせてくれました。

デジタルとアナログの使い方については、これからも社会や技術の変化とともに考え続けていく必要があります。すぐに一つの答えを出せるテーマではありませんが、みなさんが示してくれた「学ぶ目的や状況に応じて使い分けたい」という考え方を、これからの教育を考える上で大切な提案・提言として受け止めました。



今回の提案をきっかけに、渋谷区教育委員会としても、皆さんの意見を教育現場の先生や、学習の進め方・学校のルールを検討する場にも共有しながら、一人ひとりが自分に合った学び方を選べる環境をどうつくっていきけるかについて、引き続き検討を進めていきます。学習者一人ひとりの思いも大切にしながら、より良い学習環境の実現につなげていきたいと考えています。時間をかけて向き合ってくれたみなさんに、あらためて感謝します。

## (2) 環境

### <落書き>

落書きを減らすために何が必要かを、「知ってもらう」「どう伝えるか」「どう学びにつなげるか」という形で具体的に整理しており、実際の取組としてイメージしやすい内容です。

#### ●LINE 通報の認知アップについて

渋谷区には、公式LINEから落書きなどを写真と場所つきで知らせられる仕組みがあります。一方で、みなさんの調査から「子どもはLINEをよく使っているのに、通報制度は知られていない」というギャップがあることに気づかされた点は大きな発見でした。そこで今後は、広報啓発ポスターなどさまざまなものを活用して、知ってもらう機会を増やせないか検討していきます。



#### ●落書き防止ポスター／アートでの表現について

「落書きを防ぐ」という考え方をあらためて示した点は、渋谷区が進めてきたアートによる再発防止の取組に、より「伝わる工夫」を重ねる発想として意義があります。渋谷区では、落書きを消すだけでなく、再発防止のためにアートで塗り替える取組（シブヤ・アロープロジェクト（落書き防止アート））も進めています。ここにみなさんの発想を重ねて、アートの中に防止・抑止が感じられる言葉やサインを自然に組み込む形も考えられます。こうした「見た目の魅力」と「伝えたいこと」を両立させるアイデアはとても面白く、落書きの再発を減らす取組に新しい可能性を広げるものとして期待できます。



#### ●面白い授業について

「講師が話しすぎない」「クイズやゲームで学ぶ」「短く分かりやすく」という提案は、聞くだけで終わらせず、自分で考えて行動につなげるための工夫になっていて、とても良い視点です。これまでも「シブヤ未来科」などで学校と個別に連携してきましたが、さらなる連携強化を検討し、授業の中で「落書きは犯罪」「なぜ増えるのか」「見つけたらどうするか」を、短時間の参加型ワーク（〇×クイズ、ロールプレイ等）などを取り入れながら、みなさんが「面白い」と思える形になるように内容を考えていきます。



## <ポイ捨て>

ポイ捨てが増えている今の渋谷の状況をふまえ、「どう伝えれば分かってもらえるか」「どうすれば捨てたくなるか」に焦点を当てているのが良いところです。渋谷には海外からの来街者も多く、コロナ禍後の人の増加に合わせてポイ捨てが課題になっているため、相手に届く伝え方を考えることがとても大事になります。

### ●日本語が分からない人にも伝える工夫について

「会議を開く」「具体例を示す」「質問を受け付ける」「実物を使う」という提案は、相手を責めるのではなく、やさしく伝えて相互理解につなげようとしている点がすばらしいです。今後、ごみ箱の設置が増えていく流れの中で、外国人や来街者にも迷わず使ってもらえるよう、文字だけに頼らず、ペットボトル・かん・びんなどの具体例をピクトグラムやイラスト、写真で示す工夫は特に効果が期待できます。さらに、イベントの場で実物を使ったミニ体験を行うことや、分からないときに聞ける状況を用意することなども、実施方法や場面を選びながら取り入れられないか検討していきます。



### ●「バズるごみ箱」について

「渋谷らしい形」「光や表示」「捨てるとありがとうと言う」など、捨てる行動を前向きに変える発想はとても面白く、ポイ捨てを減らすきっかけになり得ます。これについては、検討中の公共用ごみ箱設置の取組の中で、運用や安全面もふまえつつ、対応可能な範囲のデザイン（見た目・表示・分別の分かりやすさ等）として活かせる部分がないか検討していきます。



### ●最後に

渋谷区では、「きれいなまち渋谷をみんなで作る条例」の改正により、ポイ捨て対策を強めています。具体的には、繁華街など一部エリアを対象に、飲食料を販売する店舗にごみ箱の設置と適正管理を求めるごみ箱設置義務化を令和8年4月1日から適用します。あわせて、ポイ捨てをした人の罰則も見直しするなど、こうした取り組みでごみをポイ捨てさせないことを目指していきます。みなさんの提案は、こうした「捨てる場所」が整っていく動きの中で、来街者にもルールが自然に伝わり、使ってもらえる形をつくる工夫として、これからの進め方に大きなヒントを与えてくれる内容です。

### (3) 福祉

#### <ヘルプマーク>

みなさんの提案は、障がいのある人の気持ちを想像し、「困っていても外からは分かりにくいことがある」「助けたいと思っても、どうすればいいか分からないことがある」という日常の場面に目を向けた、思いやりのあるものです。マークを知ってもらうだけでなく、「マークの意味」と「どんな配慮が助けになるか」をセットで伝えようとしている点に、大事な気づきがあります。

渋谷区では、障がいのある人もない人も、自分らしく暮らせるやさしいまちを目指し、お互いを理解し支え合う地域づくりを大切にしています。みなさんの提案は、その考え方と同じ方向を向いています。

一方で区では、自閉症啓発デー・発達障害者週間や障害者週間のように、時期を決めた啓発は行ってきましたが、マークそのものについて「意味」と「配慮の仕方」をまとめて分かりやすく伝えることは、これからさらに工夫できる部分がありました。

そこで、区役所や図書館などの区の施設で、障がいに関するシンボルマークの一覧と、「こんなときは、こんな声かけや配慮があると助かります」といった具体例を載せたポスターを作成し、掲示することなど周知の方法も合わせて検討します。また、区のイベントなどでは、クイズ形式にするなど、子どもでも楽しく学べる工夫を取り入れ、マークや配慮について知ってもらえる方法について検討していきます。



#### <音楽撮影会>

みなさんの提案は、障がいのある人もない人も、それぞれのちがいを前提にしながら同じ場に参加できるように考えられています。音楽に合わせて「演奏する」「踊る」「撮影する」など役割をいくつか用意することで、得意・不得意やその日の体調に合わせて、自分に合った参加のしかたを選べるようになっていきます。障がいの有無で分けるのではなく誰もが自分らしくいられる場、多様な人が自然にまざり合っただけ楽しめる場をつくろうとしている点が、この提案の大切なところですよ。



渋谷区では、障がいのある人も地域の中で当たり前に関わり合いながら暮らしていくことを大切にしています。また、子どものころから人とのちがいにふれ、理解する経験を重ねることが、将来の地域づくりにつながると考えています。音楽撮影会の提案は、こうした区の考え方とも重なっています。



この提案を受け、発案者が通う小学校で音楽撮影会の実施に向けた検討が進んでいます。校長が直接意見を聞き助言し、次年度のMY探究で内容を深める予定です。実施にあたっては、通常学級・特別支援学級の担任へのプレゼンや、実行委員会を組織し、当日の運営を見学が行うなど、障がいの有無に関わらず参加しやすい場づくりを見学が主体になって進められるようにする予定です。

区としては、この学校での取組をモデルケースに、学校や関係機関と連携し、今後ほかの学校へ広げていくことについても検討していきたいと考えています。



### <福祉×緑化>

「緑化×福祉」をテーマに、だれもが五感を使って緑を感じ、心や体の健康や交流につながるまちを目指す提案をありがとうございました。目が見えにくい人も、においや音で緑を感じられるという視点や、「障がい者」「健常者」と分けずに考えたいという思いは、だれもが安心して過ごせるまちにつながる大切な視点だと感じました。



### ●施設内の緑化について

公共施設の中に植物を置くという提案については、区役所本庁舎3階の住民戸籍課のように、区民の出入りが多い場所で鉢植えを置いている例もあります。今回の提案のとおり、みどりには様々な効果があり、区では「みどりの基本計画」を策定し、緑被率、緑視率などみどりの量の増加と満足度の向上を目指しています。その中で、みどりとふれあう機会の創出などにも取り組んでおり、主に屋外のみどりを対象として取り組んでいましたが、屋内において緑を感じられる環境づくりについては、ご提案いただいたとおり、ストレス解消や心身の健康増進などみどりの効果が期待できるものと考えられます。



また、渋谷区には植物について学んだり体験したりできる施設として、ふれあい植物センターがあります。今回の提案のように、建物の中でも緑を感じやすくする工夫を考える際には、必要に応じて、ふれあい植物センターでの情報発信や知見も参考にしながら、植物の選び方や置き方、手入れのポイントなどを取り入れやすい形でまとめることや、こうした整理を通じて施設ごとの状況に応じて考えていきます。

### ●施設内で自然の音を流すことについて

視覚に頼らず落ち着ける環境づくりという視点は、来庁者が安心して過ごせる場を考えるうえで重要な示唆があると受け止めています。



提案のもととなった実験では、専用の音響設備を用いて自然音を再現する手法が用いられていますが、区の施設においては、すでに館内放送として昼や夕方に音楽を流すなど、既存の設備を活用した取組を行っています。

他の自治体でも、庁舎内でBGMを流すことで、場のざわつきを和らげたり、窓口での会話が周囲に聞こえにくくなるよう配慮するなど、「癒し」にとどまらない目的で運用されている事例があります。

こうした知見や事例も参考にしながら、専用の音響設備を新たに導入することは難しい中でも、現在の館内放送設備の範囲で、時間帯や音量、放送内容の工夫によって、自然音をもたらすとされる落ち着きや安心感といった効果に、どこまで近づけるかについて、検討の余地がないか整理していきたいと考えています。

### ●植物を触ってみようゲームについて

植物の形や手ざわり、においなどを使って楽しむ「植物を触ってみようゲーム」は、目で見ることだけに頼らず、だれでも参加しやすくなる工夫だと思いました。こうした体験のアイデアは、植物に関するイベントを行う部署や施設でも参考にでき、会話が生まれて交流が深まるきっかけにもなります。また、植物に限らず、「触れて感じる」展示のしかたを考えるときのヒントにもなる提案だと受け止めています。



なお、自然に関しては、区では公共建築物等で木材の利用（木質化等）も進めています。緑化と同じく、建物の中を健康的で温もりのある快適な空間にしていく、方向性が近い取組でもあり、二酸化炭素の排出抑制にも効果があるものとして紹介します。

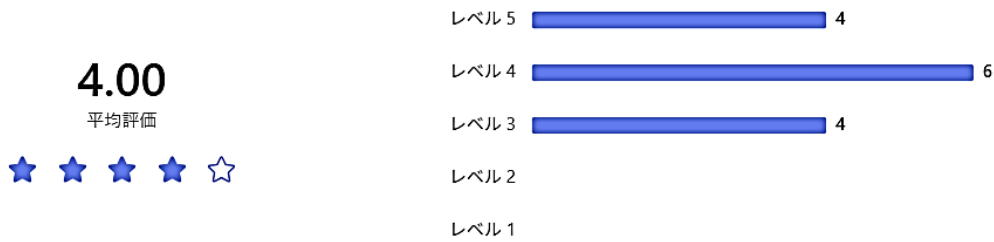
## 5 アンケート集計結果

12月末に、参加者およびその保護者を対象として、無記名のアンケート調査を実施しました。

### (1)参加者向けアンケート

※回答数 14件

1. 子ども会議について満足度を教えてください

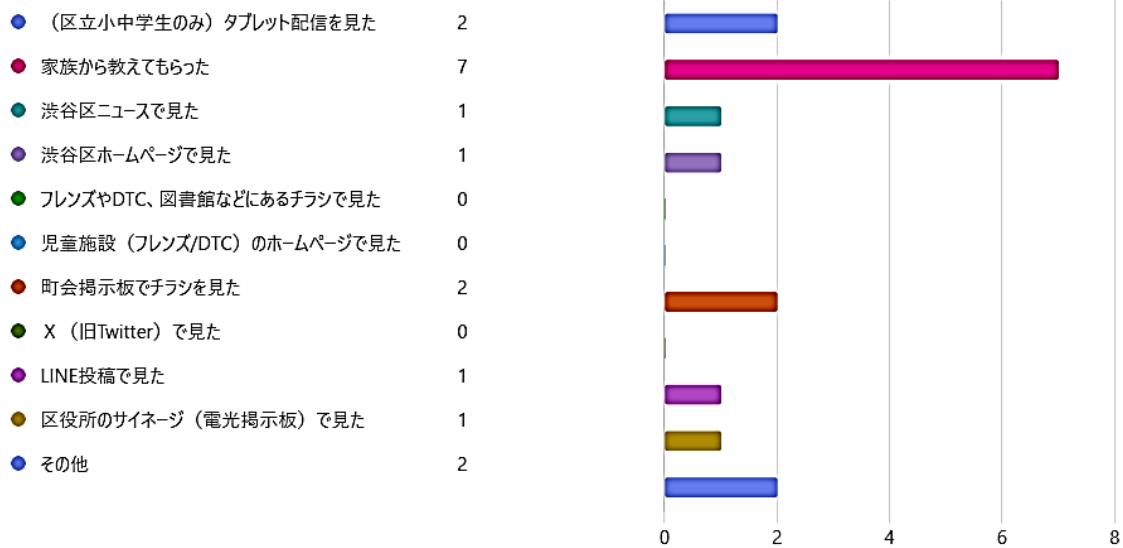


2. 以下の20の質問について、あなたの気持ちに近いものを選んでください。

● とてもそう思う ● そう思う ● どちらともいえない ● あまり思わない ● 全く思わない



3. 子ども会議をどうやって知りましたか（当てはまるものすべてにチェックしてください）



以下、参加者のアンケート回答(自由記述)については、同じような内容をまとめ、全体の傾向が分かるように整理して示しています。なお、これはアンケートに書いてくれた回答の内容をもとにまとめたものであり、すべての意見をそのまま載せているわけではありません。

4. 子ども会議に参加してよかったところを教えてください。

- ・区長や副区長、教育長など、区の人たちに直接意見を伝え、話し合うことができたのがよかった
- ・自分の中にあった疑問や考えを言葉にして伝え、深く話し合うことができたのがよかった
- ・いろいろな年齢や立場の人と交流し、さまざまな意見や大人の考えを聞くことができた
- ・話しやすい雰囲気があり、安心して発言できたと感じた
- ・渋谷区で今起きていることについて、みんなで考え、学ぶことができた
- ・普段あまり深く知る機会のないテーマについて考えることができ、視野が広がったと感じた
- ・自分の意見をその場で受け止めてもらい、話し合いの中で共有できたと感じた
- ・おやつやお菓子があり、アレルギーへの配慮もされていて安心できた

5. 子ども会議をもっとよくするためのアイデアがあれば教えてください。

- ・話し合いの時間が全体的に短く、内容を深めるには時間や回数を増やしたほうがよいと思った
- ・小グループでの話し合い、全体での議論など、もう少し時間に余裕が欲しい
- ・発表時間が短く、これまで考えてきた内容を十分に伝えきれなかったと感じた
- ・宿題発表や細かな時間区切りが多く、進めにくさを感じたこと
- ・会議のテーマを最初から決めるのではなく、「こんな渋谷にしたい」という思いが近い参加者同士でテーマをつくっていきける進め方がよい
- ・用意されたテーマの中に、必ずしも自分が話したい内容が含まれていない場合があると思う
- ・福祉などのテーマについて、内容が大きく感じられ、もう少し具体的に話せる設定がよいと感じた
- ・会議中のおやつについて、量や種類のバランスについて改善してほしい

6.会議で話したいテーマがあれば教えてください。

- ・子どもたちの遊ぶ場所について
- ・人が多い場所での課題や、その改善策
- ・デジタルのデメリットを、より分かりやすく伝えること
- ・「これからの渋谷」や、ひとり親家庭、持病のある方などへの支援
- ・地域行事が減っていることへの課題
- ・渋谷区に区営の遊園地をつくること
- ・ストーカーや変質者などを減らし、安全で安心して暮らせるまちにするための工夫や取り組み
- ・学校の授業や勉強のあり方

7.その他、気づいたことや提案などがあれば教えてください(何でもOKです)

- ・時間を気にしすぎているように感じた
- ・お菓子や飲み物の用意、最初のゲームによって緊張がやわらいだ
- ・手間が増えても、話し合うテーマを募集してほしい
- ・大人が決めたことを聞くだけでなく、子どもが自分の考えを言ってよい場がある大切さ
- ・他の人の意見を聞き、自分とは違う考え方があると分かった
- ・こうした経験が、日常生活で周りの立場を考える力につながると感じた

## (2)保護者向けアンケート

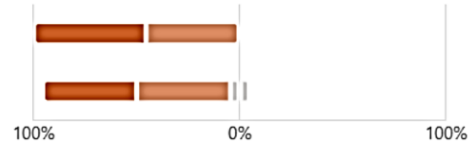
※回答数11件

### 1. お子さまの様子・安心感について

● とても思う ● そう思う ● どちらともいえない ● あまりそう思わない ● 全くそう思わない

安心して参加できていたように感じる。

自分らしく参加できていたように感じる。



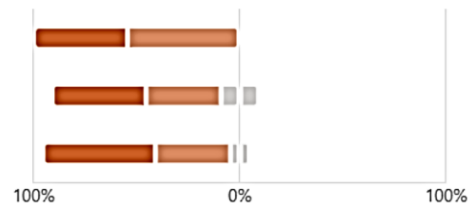
### 2. お子さまの参加・発言のしやすさについて（家庭での様子などから）

● とても思う ● そう思う ● どちらともいえない ● あまりそう思わない ● 全くそう思わない

会議について、家庭で楽しそうに話していた。

会議において「自分の意見を言えた」と感じているようだった。

お子さまの様子から、スタッフ（大人）が子どもたちの声を丁寧に受け止めていると感じた。



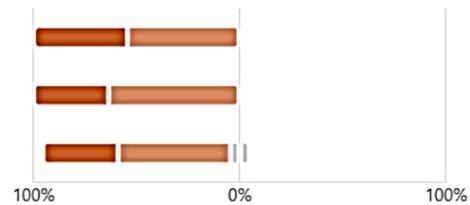
### 3. お子さまの学び・成長について

● とても思う ● そう思う ● どちらともいえない ● あまりそう思わない ● 全くそう思わない

会議を通じて、新しい気づきや学びがあったと感じる。

他の子どもたちとの話し合いを通じて成長が見られた。

テーマへの理解や興味が深まったように感じる。

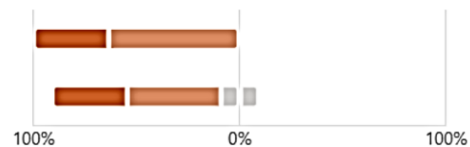


### 4. テーマ・内容の妥当性

● とても思う ● そう思う ● どちらともいえない ● あまりそう思わない ● 全くそう思わない

会議のテーマは子どもにとって意味のある内容だったと思う。

テーマの難易度は適切だったと思う。

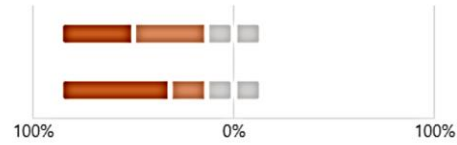


## 5. 運営

- とてもそう思う
- そう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

会議の「時期」「回数」「時間帯」は参加しやすかった。

会場へのアクセス（場所）は参加しやすかった。



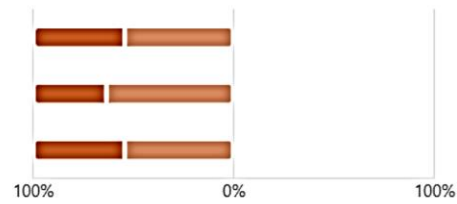
## 6. 情報提供・コミュニケーション

- とてもそう思う
- そう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

担当者からの連絡の頻度とタイミングは適切だった。

事前・事後の連絡内容は、必要な情報がそろっており、わかりやすかった。

担当者とのコミュニケーションは全体としてスムーズだった。



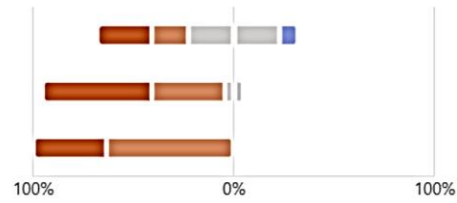
## 7. 成果・区政反映への期待

- とてもそう思う
- そう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

子どもたちの意見が区の取り組みに活かされると感じる。

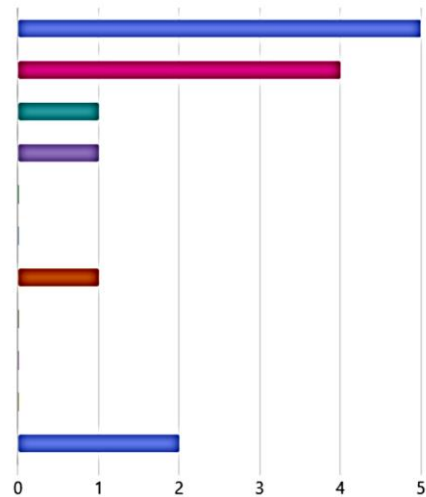
今後もこの取り組みが続いてほしいと思う。

全体として、今回の子ども会議に満足している



## 8. 子ども会議をどのように知りましたか（当てはまるものにすべてチェックしてください）

- Home & School配信で見た 5
- 子どもから教えてもらった 4
- 渋谷区ニュースで見た 1
- 渋谷区ホームページで見た 1
- フレンズやDTC、図書館などにあるチラシで見た 0
- 児童施設（フレンズ/DTC）のホームページで見た 0
- 町会掲示板でチラシを見た 1
- X（旧Twitter）で見た 0
- LINE投稿で見た 0
- 区役所のサイネージ（電光掲示板）で見た 0
- その他 2



以下の本アンケートの自由記述欄に寄せられた意見については、内容の重複を整理したうえで、全体の傾向が分かるよう概要としてまとめています。なお、概要は意見の傾向把握を目的としたものであり、個々の記載内容のすべてを網羅するものではありません。

9.良かったと感じた点があれば教えてください。

- ・参加人数が多い中でも、大人の人数が十分に配置され、子どもが安心して会議に参加できたと思う
- ・担当者からの連絡がこまめで、説明が丁寧で分かりやすく、安心して参加できた
- ・区長とざっくばらんに意見交換でき、区政に関わることを体感できた
- ・社会や選挙への関心につながる貴重な経験になったと思う
- ・子どもたちが主体的に考え、運営や発表を行っていると感じた
- ・子どもの考えや意見を大切に、耳を傾けようとする姿勢が取り組み全体に表れていると感じた
- ・保護者が会議や発表に直接介入しない形で進められていた点が印象に残った
- ・最終発表を保護者が参観でき、子どもならではの自由で率直な発想や意見を聞くことができた
- ・参加していた子どもたちの視点や課題意識に共通点が多いと感じた
- ・会議をきっかけに、家庭でも調べたり話し合ったりする時間が生まれた
- ・親子で考えを共有し、日常の中で学びを深める時間になったと感じた
- ・同じような思いを持つ子どもたちが集い、地域の未来を自分たちで考える経験になったと思う
- ・こどものうちから、身近な地域や社会について視野を広く考える経験が大切だと感じた

10.改善したほうがよいと感じた点があれば教えてください。

- ・当初の会場から変更になった理由は理解できたが、日程が近づいてからの変更で予定調整が難しかった
- ・会場は、できる限り事前に告知された内容どおりに実施してほしい
- ・会議の時期は、学期中よりも夏休みなどのほうが参加しやすかった
- ・学期中は特に忙しく、テーマを深く考える時間や余裕が少なかった
- ・会議のテーマは、決定段階から子どもたち自身で行いたかった
- ・あらかじめ決められたテーマだけでなく、子どもが自分たちでテーマを決める形がよいと感じた
- ・福祉のテーマでは、障害のある方など当事者が会議に関わる形があってもよいと感じた
- ・区議会議員など、子どもの意見を区政に反映する役割を持つ人にも傍聴してほしい
- ・子どもたちが調べ、考えてきた内容に比べて、発表時間が短く、十分に伝えきれなかったと感じた
- ・質の高い議論や表現を目指すのであれば、高学年以上を対象にすることも一つの考え方だと思う
- ・子どもたちの意見が、実際にどの程度区政に反映されるのか分かりにくかった
- ・意見を聞いた後、どのように扱われたのかが共有されると、参加する意欲につながると思う
- ・会議の内容や成果について、区や学校でもう少し共有され、継続的に取り上げられるとよいと感じた
- ・会議の時間だけでなく、会議以外の時間にも考えたり気づいたりする機会があると、学びが深まると思う
- ・気づいたことを持ち帰り、次回の会議で共有する仕組みがあると、日常と会議がつながると感じた
- ・子どもにどの程度の負荷をかけ、どこまで深く活動するかのバランスは難しいと感じたが、丁寧に設計・運営されていた点は評価したい
- ・親の待ち時間については、過ごしやすい工夫があるとありがたい

11.自由意見(その他、気づいたことやご提案など)をお聞かせください。

- ・このような貴重な機会を設けてもらえて、ありがたかった
- ・運営やサポートに関わってくれた皆さんに感謝します
- ・子どもが他の人の意見を聞き、尊重する姿勢を身につけてくれたらよいと感じた
- ・子どもが自分で考え、学ぶ時間を持てたことは意義深かった
- ・自分たちの住んでいる街を、自分たちで変えていけるかもしれないと感じられる良い機会だった
- ・日常生活で、ゲーム機やスマートフォン、タブレットに触れる時間が増えていることに不安を感じた
- ・デジタル機器は便利だが、大人が影響を理解したうえで子どもと関わる必要があると思った
- ・デジタル機器の使用については制限をかけるだけでなく、子どもと話し合いながら使い方を考えていくことが大切だと感じた
- ・外で遊んだり、自然に触れたりする機会が減っていることを心配に感じた
- ・特別な目的がなくても、身体を動かしたり、不便さの中で遊んだりする時間は大切だと思った
- ・都心でも身近に緑や公園がある環境は、子どもにとっても大人にとっても大切だと感じた
- ・スポーツなども、競技をしなくても運営として関わることで、人と協力する経験ができると感じる
- ・小さいうちから、無理のない形で社会や活動に関われる仕組みがあるとよいと思った
- ・スポーツの運営などについて幼少期から経験することで、その後も関心を持ち続けるきっかけになるだろうと感じた
- ・こども会議のような取り組みは、今後も続いてほしいと思う
- ・保護者として、地域の一員として、できる範囲で協力していきたいと感じた

## 6 渋谷区子ども会議を終えて -子ども青少年課-

本年度の渋谷区子ども会議は、渋谷区として初めての開催となりました。実施にあたっては、こども家庭庁のガイドラインを中心に整理しつつ、他自治体の取組状況も参考にしながら、委託事業者や児童館職員と検討を重ね、内容や進め方を組み立ててきました。また、子どもたちが安心して意見を出しやすいよう、話し合いの進め方や雰囲気づくり、意見を整理するための時間の取り方などについても配慮しながら実施してきました。

子どもたちは、日常生活の中で感じている疑問や困りごとを出発点に、自分の言葉で考えを伝え、他の参加者の意見にも耳を傾けながら、提案をより良い形にしていきました。限られた時間の中でも、問いを深めたり、伝え方を工夫したりしながら粘り強く取り組む姿が随所に見られ、子どもたちの主体的な参加が会議全体の推進力となりました。

今回寄せられた子どもたちの意見は、具体的な提案としてだけでなく、区の実情や取組の方向性や考え方を考える上で、多くのヒントを与えてくれるものでした。こうした声を大切に受け止め、関係部署と連携しながら、区政への反映に向けた検討を継続していきます。

また、各回の振り返りやアンケートを通じて、進め方や時間配分、話し合いの在り方などについても率直な意見が寄せられました。これらの声も次年度以降の内容や運営方法を整えていくうえでの大切な手がかりとして受け止め、改善に生かしていきたいと考えています。

最後に、参加してくれた子どもたちと、支えてくださった保護者の皆さまに感謝申し上げます。今後も子どもの意見を大切にしながら取組を進めてまいります。

## 7 その他資料

### (1) 渋谷区子ども会議実施要綱

#### 渋谷区子ども会議実施要綱

令和 7年 8月 1日 制 定

#### (趣旨)

第1条 こども基本法(令和4年法律第77号)第5条及び第11条並びに渋谷区人権を尊重し差別をなくす社会を推進する条例(令和6年3月7日条例第4号)第22条に基づき、子どもが区政その他の公共施策について意見を表明し、多様な社会参画を体験できる場として「渋谷区子ども会議」(以下「子ども会議」という。)を実施するため、必要な事項を定めるものとする。

#### (事業内容)

第2条 子ども会議は、次に掲げる事項を行うものとする。

- (1) 子どもに関わる区の施策や地域課題について意見交換を行うこと。
- (2) 前号の規定による意見交換の結果を、意見発表会等を通じて区長に提言すること。

#### (実施主体)

第3条 子ども会議の実施主体は、区とする。ただし、区長は、必要に応じて、子ども会議に係る業務を委託して行うことができる。

#### (組織)

第4条 子ども会議のメンバー(以下「メンバー」という。)は、一般公募で応募のあった区内在住又は在学のおおむね10歳以上18歳未満の者をもって構成する。

#### (ファシリテーター)

第5条 子ども会議は、会議の円滑な運営を図るため、会議ごとにファシリテーターを置くことができる。

- 2 ファシリテーターは、会議の進行補助及びメンバーの意見形成支援を行う。

(開催)

第6条 子ども会議は、必要に応じて区が開催する。

(意見聴取)

第7条 子ども会議は、必要に応じて構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(意見の取扱い)

第8条 区長は、子ども会議から提出された提言等について、施策への反映に努めるものとする。

(支援)

第9条 子ども会議の開催に当たり、区長は、次の各号に掲げる支援を行うものとする。

- (1) 子ども会議の開催及び活動等に必要な経費の補助
- (2) 子ども会議への子どもの参加及びその会議の円滑な促進
- (3) 前2号に掲げるもののほか、子ども会議に必要と認める事項

(庶務)

第10条 子ども会議の庶務は、子ども家庭部子ども青少年課において処理する。

(委任)

第11条 この要綱の実施に関し必要な事務手続及び文書の様式については、子ども家庭部長が定める。

附 則 (令和7年7月30日区長決裁)

この要綱は、令和7年8月1日から施行する。

令和7年度（2025年度）  
渋谷区子ども会議実施報告書

発行年月 令和8年3月

発行 渋谷区

編集 渋谷区子ども家庭部子ども青少年課